服部新聞　　２０２４年5月31日　　216号　　発行人　　服部雅章

第二回木工教室

2024年5月25日(土曜日）に、第二回木工教室を大阪府岸和田市木材町16-1(株)服部商店・本社で開催しました。参加年齢は6歳以下から70代の方まで幅広い年齢構成でした。

今回も、(株)服部商店 子会社：(株)マデラスタイルの「そうぞうざっか」の一つの商品『そうぞうパズル』を使って楽しんで頂いたと思います。

以前から何度も自分の商い、つまり木材業と言う業種には様々な職業が有りますが、誇れる業種だと思っています。しかし、現実は違います。『50年昔からの比較では20分の1に減少しています』。木を使わない方が美徳だと思われる風潮『割りばしは木材資源の枯渇に繋がっていると言う間違った情報』がまかり通っているのは我々の努力不足の為であると言わざるを得ない状況に追い込まれているのです。

この状況は簡単に打破できません。そうかと言って放置しているのは愚の骨頂だと考えています。そこで考えたのが地道ではありますが、幅広い年齢の方が参加出来る木工教室です。

各地で行われている木工教室を過去に多く見てきましたが、最も大事なのは安全・安心だと考えました。子供達や老人達に目を離しても楽しんで頂けることこそ、我々材木屋しか出来ない木工教室だと考えました。

そこで開発したのが、鋸切りと金づちを使わない木工教室用の商品「そうぞうパズル」です。

服部商店 木工部の古川明奈先生の指導で楽しんで頂いたと思っています。ご参加頂いた方には、次回は全く違う木工教室をする為の資料を見て頂きました。次回も是非参加したいと全員から言って頂きました。次回は未定ですが、提案したサンプルに磨きをかけて行いたいと考えています。（参加者以外には内緒にさせていただきます）

木曽谷の針葉樹

2024 年 5 月 18 日に長野県上松町で開催された木曽谷産が主な出品材の市に参加してきました。2016 年 6 月の市に初めて参加し、今年で 9 年になります。2016 年当時と 2024 年を比較すると天然木曽檜の品質劣化と出品材の数量の変化は著しいです。この状況は広葉樹の状況と変りはない様ですが、決定的に違うことが一つあります。

それは住宅事情の変化です。昨今の住まい作りにおいて和室二間作りの有る住宅は激減しています。和室が一部屋も無いマンションもあり、ヒノキの内装材が全く使わない住宅が現在の住まい作りの主体になっています。勿論木曽谷の製材工場も様々な製材する商品の用途変更を行っていますが、上手く行っていないのが現状です。特に 2011 年 3 月の東日本大震災から 13 年が経過したら、震災に遭った寺社の復興需要が有る筈ですが現実にはまだまだ寺社の復興工事は遅れていると想像します。

昨今の物価上昇や社会保険料の上昇は可処分所得の減少に繋がり、お布施や寄付に頼らざるを得ない、寺社の復興工事にお金が回らない状況は理解出来ます。

服部商店が木曽谷で購入している材は、木曾檜・天然桧・人工ひのきの 3 樹種と板目板・柾目板・柾目盤の 3 つの仕様材です。

広葉樹の世界的高騰と超円安状況は国内産の針葉樹の有り方を一遍させる可能性があると考えています。針葉樹は二つに大きく分かれています。一つ目は構造材です。これは外材から国内産材の大きな流れは加速しています。大手製材工場が日本各地に新しい針葉樹専門工場を稼働させています。また、大手住宅メーカーも新しい工場建設計画を発表しています。つまり工業化した木材製品の製造と安定供給を狙った戦略です。この戦略は中小の工務店を巻き込んだ業界再編成に及ぶと考えています。

二つ目は内装材です。家具や内装の部材ですが、この部分が構造材と比較して相当遅れています。和室が無い。大工が不足している。この状況は簡単に打破できることにはなりませんが、山全体を買いつけて全ての材を工業化する方向にした場合には和室等に使用する材と構造材に使用する材の単純な割合から見ると、多分 5%以下の表面に使う無垢材を無視した工場経営でも採算が合う様なことを考えているかも知れないと思います。

ところが、木曽谷は大規模な針葉樹製材工場が無い不思議な地区です。木曽檜を製材している工場は、大規模な製材工場から見ると小さい製材工場が殆どです。服部商店の立場から見るとその方が好都合ですが、日本国全体を見たら如何かと疑問を持ちます。

大規模な製材工場と日本中に有る零細な製材工場との意見交換は全く有りません。しかし意見交換する時代に入っているのではと感じています。

御客様訪問

2024 年 5 月 17 日に田舎の木工所を訪問してきました。その方とは今年の 3 月にメールで問い合わせがありました。お問合せの内容をお電話でお話をしましたが 5 月に訪問しても良いですかとご連絡しました。

制作している商品の詳細をお知らせは出来ないですが、大事な点だけをかいつまんでお話します。小生は以下の 3 つについてご説明しました。

① 南洋材のイメージはどんな感じを持っていますか。
② 南洋材の入手が難しくなってきているのは解るが何故だと思いますか。
③ 材木屋の重要な役目は何だと考えていますか。

先方のお返事は以下でした。

① のお答えは、『南洋材＝価格が安くて使いやすい材』でした。
② のお答えは、為替が一つの要素かなと感じています。
③ のお答えは、材を安定供給してくれる業者。

小生は事細かく説明しました。南洋材も北海道の広葉樹と同じく切り過ぎています。その為に資源量が劇的に少なくなっています。そしてマレーシア・インドネシア政府も森林を守りながら経済発展『ホテルの内装にペルポックと言う樹種を使っていました。楢の様な美しさを醸しだしていました。小生が宿泊したシャングリラホテルでの経験から』の為に自分達の優れた木材資源を使おうとしています。とご説明しました。

南洋材は安いと言う感覚を捨てていない日本人の情報の無さと、本当の南洋材の良さを知らないことではとご説明しました。東南アジア諸国は経済発展の為に世界中の企業を誘致しています。つまり付加価値の高い求人に人口が移動しています。従ってあらゆるコストが上昇してそれが木材価格に反映しています。とご説明しました。

④ の材木屋の役目の話ですが材木屋の役割をご説明しました。

目利き技術・製材技術・保管技術・仕分け技術・在庫機能の 5 つが主な役割です。その役割に応じて、材木屋が御客様のニーズから客観的に必要か否かが判定されると考えています。

インターネットが世界中の流通システムを劇的に変化させています。物凄いスピードで世界中が繋がっているのです。と言うことは、あらゆる情報を世界中どこでも検索して探し出せる世の中になっていると思っています。

ところで訪問した理由は、事業譲渡で木工所を購入したという事実です。訪問した社長はインテリア関係の中堅企業にお勤めになり、独立して家具のインテリア関係の会社を起こしました。そして新たに木工技術を駆使して新しいニーズを掘り起こし、新しい事業を起こしたいと聞きましたので、時間が有れば大阪に来て頂き、社長の考える仕入先のメンバーに入れてもらえる値打ちが有るか否かを判断して下さい。と言って帰阪しました。

インターネットが主流の世の中で、材木屋に求められる職能とは何かを考えて実行しなければ、誰一人として若い後継者は育たないと考えています。

ゴールデンウィーク

今年のゴールデンウィークは前半が 3 日間隔をあけて後半が 4 日の日程でした。昨年はまだコビット 19 の終息宣言がされる前でした。今年は終息宣言が出されて初めてのゴールデンウィークです。服部家としては恒例行事で決まっている久米島に 3 泊 4 日のスケジュールで出掛けてきました。

5 月 3 日伊丹発沖縄本島行の JAL に搭乗し那覇空港で久米島行の JTA に乗り換え 1 時過ぎに久米島空港に到達しました。

毎年パイナップルを送って頂いている赤嶺パイン園を訪問してパインジュースを頂き、今年の夏に送って頂くパイナップルの出来をお聞きします。そして 3 日間過ごす為に生協が経営するスーパーに買い出しに行きます。そしてお世話になるダイビングショップに向かい 2 日間のダイビングの日程の確認をしてようやくホテルに 3 時頃に到着します。『タクシー代は 5,700 円です。』

沖縄地方はゴールデンウィーク前後に梅雨入りするので、天候に最も気を付けなければならないダイビングは、特に安全なポイントを選んで潜ります。昨年は石垣・宮古でダイビング事故が起こり、ショップの方も安全第一を順守していました。

今年と例年の違いは外国人の割合がパンデミック前より増えてきた感じがあります。以前は日本にお住まいの外国人がダイビングを目的に久米島に来ていましたが、今年は沖縄のメジャーな離島（石垣・西表・宮古島）以外に観光目的で来られていたように感じました。ホテルの受付も英語が解るスタッフが配置されていました。

外国の皆さんが気軽に日本に来る時代が始まっているのだと感じています。我々日本人は正月休み・ゴールデンウィーク休み・お盆休み・シルバーウィーク休み等休日が決まっているのが習慣になっていますが、欧米の様に決まった時期に日本全国の人が休む習慣をそろそろ変える時期が来ているのかも知れないと思っています。

今回の久米島旅行の目的は小生の次男のダイビング本数が 100 本に達する記念ダイブです。船の上は少々風が有りましたが、海の中は、多少流れはあるものの安全なダイビングを楽しめた 2 日間でした。